

愛媛大学

平成25年度土木海洋会だより

— 第19号 —



Mine Engineering
Civil Engineering
Ocean Engineering
Civil & Ocean Engineering
Civil & Environmental Engineering

目 次

ごあいさつ	(会 長 河野 徹 土木42年卒).....	1
学科だより	(副会長 環境建設工学科 学科長 吉井 稔雄).....	2
新任教員の挨拶	(助 教 河合 慶有).....	3
支部だより	(関東支部幹事長 黒坂 佳司 海洋57年卒).....	4
	(近畿支部幹事長 鈴木 忠彰 土木47年卒).....	7
	(中国支部幹事長 村下 耕荘 海洋54年卒).....	8
	(愛 媛 支 部 長 高橋 正雄 海洋55年卒	
	副支部長 黒川 重男 土木55年卒	
	幹 事 長 栗原 弘和 土木2年卒).....	10
同窓会報告	(高須賀大祐 環建19年修卒).....	15
	(宗片 康修 鉱山38年卒).....	16
	(宮岡 勲 土木46年卒).....	17
	(岩丸 純芳 鉱山37卒).....	18
平成25年度総会報告		20
会計報告		22
事務局だより		24

巻 頭 文

会長 河野 徹（土木42年卒）



土木海洋会会員の皆様いかがお過ごしですか？

わが国の世帯収入及び国内総生産（GDP：名目500兆円程度）に見られるここ20年間の低迷は、長年の不況を感じさせる今日この頃です。この国内総生産（GDP）を対外的に比較すると、わが国は20年前と同程度、中国は16倍、韓国が5.4倍、アメリカでも2.3倍となっており、日本経済が殆ど成長していないことが判ります。一方、建設関連に目を向けると、平成8年以降15年間続いていた名目の建設投資額の減少は下げ止まり、平成23年より、24年、25年と増えてきています。GDPに占める建設投資の割合も半世紀前の24.6%に及びませんが少しずつ増えて10.2%まで回復しました。

4年前の民主党政権誕生で、「コンクリート（公共工事）から人（福祉）へ」のスローガンの下に投資が移りました。戦後一党で308議席をかかえる最大人数政権の誕生により、いわゆる自民党の55年体制は終りを告げたのです。そして新政権も、人材は多数控えており55年体制以上に続くであろうと言う大方の予想を覆し、首をすげ替えることが出来たのは2人のみで合計3人の総理の誕生で終わりました。これもまったくの想定外でしたが、続く復帰自民政権の施策は、我々にとって現時点では良好な結果が出ています。

しかしそれに甘んじてはいられません。この公共投資が何時までも続くとは考えられないからです。日本の国家債務は対GDP比で238%と膨らみ、ギリシャ156%、ジャマイカ146%、レバノン139%、イタリア127%など他国と比較すれば如何に大きな債務を負っている国であるかが伺えます。日本は投資余力がなくなっているのです。我々の学生時代には、将来の資格社会に向け関連する資格はできるだけ早く取るようにと指導を受けたものです。しかし今では、資格維持のための継続学習（研鑽）が必須条件になっています。

日本古来の食事に天ぷらそばが有ります。そば、醤油、味噌、カツオだし、かまぼこ、しいたけ、えびが主な材料ですが、カロリーベースにおいて自給率は20%です。国際化の進展は、「英語くらい話せるようになるべきから英語以外の言語も使いこなせるようになるべき」と要求が高くなってきています。（大島賢三：元国連大使 秋山仁：数学者）

このように、世界情勢及びそれに準じた国内事情も日々刻々変化してきているのです。其れだけにやりがいがあると考えれば又楽しいのではないのでしょうか？ 一人では難しい事でも、同窓会などの諸先輩の意見を聞きながら、あるいは若者の斬新なアイデアを聞きながら力を合わせて高くなってきているハードルをクリアしたいものです。

学科だより

学科だより

副会長 環境建設工学科 学科長

吉井 稔雄

皆様いかがお過ごしでしょうか？地震に台風、自然災害の頻発により皮肉にも我々技術者の役割が見直されつつあるように感じます。

さて、環境建設工学科におきましては、本年10月1日、河合慶有助教をメンバーに迎え入れるとともに、森脇亮先生（平成19年着任）が准教授から教授に、倉内慎也先生（平成18年着任）および三宅洋先生（平成16年着任）が講師から准教授へと昇任いたしました。その結果、平成25年10月1日時点で、教授9名、准教授9名、講師1名、助教6名、兼任教員3名の計28名の教員と技術職員5名、事務職員1名、契約職員11名の計45名のスタッフが学科を運営しております。残念ながら女性の教員を迎え入れるには至っておりませんが、多くの女性職員の方々のおかげで学科の雰囲気もずいぶんと変わってきたように思います。

私、昨年度より学科長を仰せつかり今年は2年目を迎えております。ほとんど何の役にも立っておりませんが、若い研究者の皆さんに多くの自由時間を持って頂きたいとの一念で、優先度の低い仕事の整理に専念しております。

学生の教育に関しましては、平成23年度に迎えた社会デザインコース1期生の学生が3年生になりました。彼ら／彼女らは従来の土木コースの学生とは異なる資質を持っており、社会デザインコースと土木コースの学生が互いに刺激を与え合うことでともに成長していくことを期待しています。両コースの学生ともに、「従来の土木技術に関する知識に加え、環境やエネルギー問題などに関する幅広い見識を備え、かつグローバルな視点を持って社会に貢献する技術者」として世に送り出した

いと教育を行ってきましたが、まもなく始まる就職活動において一応の評価が下されることとなりますので、その結果を楽しみにしているところでございます。

国際化に関しても、Kanken Study Abroadプロジェクト（KSAプロジェクト）など、継続的に規模を拡大して海外の大学との交流を行っています。また、外国人留学生を迎え入れるとの方針の下、現在博士課程7名、修士課程2名の外国人留学生が在籍しています。留学生の増加に伴って、英語による大学院講義提供を実施していく予定で、大学院に進学する日本人学生の英語コミュニケーション能力向上にも取り組んでいます。

近年における卒業生の進路は、約1/3が大学院に進学、残りの約2/3が官公庁、建設業、製造業、運輸、情報産業など幅広い業種への就職となっておりますが、全体の傾向として公務員志望の学生が増えているようです。幸い、毎年ほぼ100%の就職率を達成しておりますが、土木海洋会の皆様におかれましては、引き続き社会に羽ばたかんとする後輩達に対するご支援を賜りますよう心よりお願いする次第です。また来る2月15日(土)には、近畿支部の皆様のご尽力により、就職説明会を兼ねたOBと現役学生の交流会を開催する予定ですので、お時間の許す方は是非参加下さい。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

最後に、我々スタッフ一同、学科の伝統を守るとともに、さらなる発展に向けて努力して参りますので、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新任教員の挨拶

着任のご挨拶



環境建設工学科

助教 河合 慶有

はじめまして。環境建設工学科建設材料開発学研究室に助教として着任いたしました河合慶有と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。私は、平成18年に東京工業大学理工学研究科国際開発工学専攻修士課程を修了し、その後、約3年間をエンジニアリング会社、その後4年間

シンガポール国立大学にPhD留学し、平成25年10月より愛媛大学に参りました。

従来、メンテナンスフリーと考えられてきた鉄筋コンクリート構造物が設計寿命前に劣化する事例が多数報告され、その保守・点検、維持管理方法の高度化が大きな社会要請となっています。また、鉄筋コンクリート構造物が曝される環境に応じて耐久性を考慮した適切な材料設計、使用寿命予測あるいは非破壊検査による点検結果を踏まえた健全度診断を含めた総合的なマネジメント手法構築に関する研究が注目されています。特に、高速道路や港湾構造物あるいはトンネル構造物は産業を支える重要な社会基盤であり、中性化や塩害など環境に応じた劣化要因を把握し、効果的な維持管理方法を策定することが大切な構造物を長持ちさせるために重要です。

一方、コンクリート業界の温室効果ガス排出量を低減する環境低負荷な材料設計方法が様々な提案されてきています。産業副産物（フライアッシュなど）を普通ポルトランドセメントに混入することによりワーカビティの改善や長期に渡る強度増進が期待される材料設計が注目されています。しかしながら、このような環境負荷を低減できるセメント系材料の実構造物への適用には課題もあるのが現状です。特に、材料のばらつきに起因するフレッシュコンクリートの初期性状や硬化コンクリートの強度、乾燥収縮などの長期的な材料特性を適切に評価する必要があります。当研究室においては、産業副産物である高品質フライアッシュと銅スラグ細骨材を利用した低収縮コンクリートの製造技術の研究開発に取り組んでいます。

以上の通り、環境に配慮した材料設計・選定や新設・既設の鉄筋コンクリート構造物のインフラマネジメントに関する研究を通して、持続可能な社会発展、また社会基盤構造物の長期的な安全対策に研究者、工学者の立場から貢献していきたいと考えています。

また、国内、海外の大学院での研究活動や海外エンジニアの勤務経験を通して国際的なエンジニア養成には留学生の受け入れや英語による教育・研究活動、また海外の土木系学生との国際交流が非常に有効であると感じています。このような、研究・教育の国際化に関わる活動についてこれまでの経験に基づき伝えていきたいと考えています。

関東支部だより

関東支部幹事長 黒坂 佳司（海洋57年卒）

10月になってもまだまだ暑い日が続いた関東地区も11月になると急に秋の涼しさを通り越して初冬の趣も感じるようになっていますが、会員の皆様はお元気でお過ごしでしょうか。

関東支部では、「会員各位間の親睦を深め、新たな発見のために少しでもお役に立ちたい」との、関東支部発足以来諸先輩方から引き継いできました使命感の下、平成24年度は以下の活動を行ってまいりました。

1）平成24年7月21日(土)：関東支部総会

場 所：キャンパスイノベーションセンター（田町）

参加人数：支部会員21名



内容：平成24年度関東支部総会は、7月21日(土)に、愛媛大学サテライトオフィスのご協力のもと、田町のキャンパスイノベーションセンター（CIC）5階において、21名のOB／OG参加のもと開催されました。大仲支部長のご挨拶の後、H23年度事業報告、H23年度決算報告、役員の交代、H24年度事業計画およびH24年度予算について

ご承認頂き、新支部長に土木50卒の土岐睦弘氏が就任されました。

大学からは、愛媛大学教授の吉井稔雄先生に京賜り“次世代の道路案内標識「ココ！マーク」”について、ご講演頂きました。

2）平成24年10月20日(土)：第8回秋のレクリエーション



場 所：猿島バーベキュー大会(神奈川県)

参加人数：14名

内容：絶好の秋晴れのなか、横須賀・三笠公園横の三笠栈橋から約10分間の連絡船の旅で到着する猿島でバーベキュー大会を行いました。提携のお肉屋さんから取り寄せた美味しい食材に、皆で手分けして運んだ

タップリのビール、ワイン、焼酎で、うらかな秋の無人島での一日を十分に満喫しました。

3) 平成24年12月1日(土)：第24回 クラブOH！海土 懇親ゴルフ大会

場 所：紫カントリークラブ 紫あやめ（千葉県）

参加人数：8名



内容：第24回クラブOH！海土 懇親ゴルフ大会は、12月1日(土)に、千葉県の紫カントリークラブ・紫あやめコースにて会員8名の参加で開催されました。12月とは思えないゴルフ日和の中、有次隆さん（土木51）が優勝されました。

4) 平成25年1月26日(土)：関東支部 平成25年 新年会

場 所：キャンパスイノベーションセンター（田町）3階ラウンジ

参加人数：支部会員17名



内容：平成25年新年会は、1月26日(土)午後3時半より、愛媛大学サテライトオフィスのご協力のもと、田町のキャンパスイノベーションセンター3階ラウンジにて開催されました。土岐支部長の年頭挨拶の後、来賓の河野土木海洋会会長、

鳥海工業会東京支部長のご挨拶を賜りました。その後、愛媛大学OBで現宇都宮大学の伊藤智志先生からご講演を頂きました。

5) 平成25年3月30日(土)：第25回 クラブOH！海土 懇親ゴルフ大会

場 所：金乃台カントリークラブ（茨城県）

参加人数：8名



内容：第25回クラブOH！海土 懇親ゴルフ大会は、年度末の3月30日(土)に、茨城県の金乃台カントリークラブにて会員7名に加えて新年会でご講演頂きました伊藤先生の参加で開催され、会計幹事の加藤正雄さん（海洋56）が優勝されました。

上記の他、幹事の皆さんは多忙な中で日程を調整し年間5回の幹事会を開催し、各イベントの詳細計画等を協議し関東支部活動の力の源泉となりました。

関東支部では、毎年、愛媛大学から先生をお招きしてご講演を頂く支部総会を始めとして、多彩な方面で活躍されているOB / OGの方にご講演をお願いしている新年会、春・秋2回開催の懇親ゴルフ大会、さらには、幅広い年齢層の方々と一緒に楽しめるように企画している秋のレクレーションを活動の4つの柱としています。

幹事一同、今後も少しでも会を盛り上げていきたいと頑張っておりますので、お近くの方はぜひお気軽に参加して頂ければと考えております。また、就職・転勤などで関東地区に転入された方は、是非ご一報下さい。

近畿支部だより

近畿支部幹事長 鈴木 忠彰（土木47年卒）

昭和47年卒の鈴木です。昨年から近畿支部の幹事長を務めさせて頂いております。

海外ニュースで先月（H25／10）にはトルコの長年の悲願であったボスポラス海峡横断トンネルが日本の高度な技術（T建設）での完成が報じられ、安倍総理も参加し祝辞を述べ国威発揚に一役買っています。

国内に目を向ければ東日本大震災復興事業、国土強靱化計画事業、東京オリンピック関連事業、南海東南海など大規模地震対策事業、等々広範囲な土木技術が必要とする事業が山積しており、私が退職した頃（H17）と比較して公共事業を取巻く環境が一変しております。

近畿支部の例年の主活動は1～2月新年会、7月総会、京都有名社寺見学会、秋の懇親ゴルフなどです。

- ・ 新年会（H25／2 参加23名）・総会（H25／7 参加20名）では、大学本部からの来賓教員とともに、名誉教授で関西在住の豊国永次先生（土木43.10

～62.03)・稲田善紀先生(海洋53.04～57.11土 木57.12～19.03)・室達朗先生(海洋53.06～17.03)にも出席いただいております。

- ・ 社寺見学会は、10/26京都市左京区比叡山麓にある「修学院離宮」を訪れました。宮内庁への事前応募で、4人1組で午前午後の2組参加いたしました。歴史に興味ある方にはいつも大変喜ばれています。



総会参加者

- ・ 懇親ゴルフは11/30に3組で兵庫県篠山市のジャパンビレージゴルフクラブで行ないます。見学会・ゴルフとも会員の健康維持と親睦に大変役立っております。

諸活動の参加年齢は高い状況が続いていますが、若手会員に参加しやすいような環境作りにいろいろ努力しております。

来年の新年会(H26/2/15)には、本部の吉井稔雄教授との連携で環境建設工学科学学生対象の企業説明会兼新年会を実施いたします。

新しい趣向で近畿支部会員と若い学生諸君の交流をはかり、両者の活性化に繋がるように頑張って参りたいと思っております。

皆様の忌憚のないご助言ご指導をお願い申し上げます。

月 曜 病

中国支部幹事長 村下 耕莊（海洋54年卒）



自分の周りで、うつ病とか心身症を患っているひが増えたと感じられませんか。

メールマガジンを見ていて目についた、それらの病気の症状のひとつである「月曜病」（ブルーマンデー症候群）について書きます。

(1) 身に覚えがある人が多いと思うのですが、「月曜病」とは、休日明けの月曜日の朝、「何だか会社に行きたくないなあ」と憂うつな気分襲われることです。

(2) その症状は

- ① 日曜の夜になると仕事のことが気になり、イライラが高じて寝付けない、
 - ② 特に月曜の朝の寝起きが悪い、
 - ③ 下痢や腹痛で会社への出勤途中、電車を途中下車することがある
- といったものだそうです。

勤め人が月曜日に心筋梗塞を起こす危険性は他の曜日よりも明らかに高く、男性の勤め人に限ると他の曜日より30%も高いという報告もあります。

(3) 月曜病にかかっているかどうかのチェックリストは以下のものがあります。

- ① 人がいいといわれる。
- ② 他人と争うのは好きじゃない。
- ③ 週末はゴロゴロしているだけだ。
- ④ 日曜日の夕食はおいしく食べられない。
- ⑤ 日曜日の夜はイライラが高じて寝付けない。

3つ以上当てはまるならば月曜病にかかっている可能性があるそうです。

(4) 月曜病の未然防止

- ① 土曜日は家族サービスをして過ごす。
- ② 日曜日はスポーツなどで体を動かして汗を流し夜ぐっすり眠れる。

逆に疲れの出るスポーツなどは土曜日にやって、日曜日になると家族サービスに努める人が多いみたいです。

(5) 月曜病が高じた場合

この状態が高じると、出社前に頭痛や動悸（どうき）などが起こり、「会社に行きたくても行けない」という「出社拒否症」に襲われることになります。出社拒否症はうつ病や心身症の一つですので、専門医の受診が必要になります。

出社拒否症の人に対して行ってはいけないことは、励ましたり、責めたり、無理に会社に行かせようと迫ったりしないことです。不用意な励ましの言葉は、本人をより追い込むことになるので禁物です。励ましが苦になって、自殺してしまうケースも少なくないそうです。もし身近に出社拒否症に陥った人がいたら、決して「頑張って」などと、励ましてはいけないそうです。本当に「じえじえじえ」です。私自身も気をつけていこうと思います。

愛媛支部活動報告

支 部 長 高橋 正雄（海洋 S 55 年卒）
副支部長 黒川 重男（土木 S 55 年卒）
幹 事 長 栗原 弘和（土木 H 2 年卒）

愛媛大学土木海洋会会員の皆様におかれましては、ご活躍のことと存じ上げます。また、日頃より土木海洋会愛媛支部の活動にご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

平成23年度及び平成24年度は、玉井支部長、高橋副支部長、白石幹事長のもと支部活動を行って参りました。平成25年度及び平成26年度につきましては、後述します新たな役員にて支部活動を行って参ります。

土木海洋会だよりの紙面をお借りして、平成24年度の活動報告を致します。

【平成24年度事業報告】

平成24年度は、役員会をはじめとして、ゴルフコンペを2回、忘年会を開催し、多数の出席を頂きました。詳細は下記に示します。また、ゴルフコンペと忘年会につきましては後ほど詳しくご説明します。

1. 役員会開催（平成24年7月28日）出席者16名
議題：支部総会用資料の審議
2. 自主活動「大賀先生を囲む会」（平成24年8月3日）出席者13名
会場：新居浜市泉宮町5-8 「ユアーズ」
3. 支部総会（平成24年8月25日）出席者12名
会場：愛媛大学 校友会館
4. 本部総会（平成24年8月25日）
会場：愛媛大学 校友会館
5. 愛媛支部 ゴルフコンペ（平成24年11月24日）参加者10名
会場：サンセットヒルズカントリークラブ
6. 忘年会（平成24年11月24日）出席者33名
会場：伊予鉄会館 2階 中華料理「北京」
7. 愛媛支部 ゴルフコンペ（平成25年6月8日）参加者12名
会場：サンセットヒルズカントリークラブ

【平成24年度会計報告】

平成25年7月3日時点での会計報告を下記に示します。

収 入	支 出
前年度繰越金 684,081円	レクリエーション補助費 9,000円
本部からの補助金（24年度） 100,000円	役員会開催費 40,000円
利 息 99円	ゴルフコンペ補助費（11月） 30,000円
	忘年会案内通信費 4,000円
	忘年会補助費 66,000円
	忘年会写真現像費 7,579円
	ゴルフコンペ補助費（6月） 36,000円
	レクリエーション補助費 29,250円
	次年度繰越金 562,351円
収入合計 784,180円	支出合計 784,180円

【平成25年度予算報告】

平成25年度の予算報告を下記に示します。

収 入	支 出
前年度繰越金 562,351円	役員会開催費 30,000円
本部からの補助金 100,000円	印刷通信費（葉書、写真プリント等） 12,000円
利 息 99円	支部主催ゴルフコンペ補助 36,000円@ 2 回 72,000円
	忘年会補助等 2,000円@35名 70,000円
	同窓会補助 2,000円@10名 20,000円
	予備費 458,450円
収入合計 662,450円	支出合計 662,450円

【平成25年度事業計画】

平成25年度の事業計画につきましては、この土木海洋会だよりをご覧になるころには、支部総会、本部総会、第1回支部主催ゴルフコンペと忘年会は実施済みとなっていることと思います。

第2回ゴルフコンペなど、今後も行事を考えておりますので、多数の方の参加を心よりお待ちしております。

支部総会（H25. 8 .24）愛媛大学 校友会館
 本部総会（H25. 8 .24）愛媛大学 校友会館
 愛媛支部 第1回ゴルフコンペ（H25.11.30）
 忘 年 会（H25.11.30）伊予鉄会館
 愛媛支部 第2回ゴルフコンペ（H26. 2～3）
 そ の 他 同窓会補助など

【平成25年度役員紹介】

平成25年8月24日の支部総会より次年度の総会までの間、次に示します役員により、愛媛支部の運営を行ってまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

支 部 長	高橋 正雄 (海洋S55年)	三井住友建設(株)
副支部長	黒川 重男 (土木S55年)	愛媛県
幹 事 長	栗原 弘和 (土木H2年)	㈱四電技術コンサルタント
幹 事	大賀水田生 (土木S49年)	愛媛大学
	勝谷 雄三 (土木S49年)	松山市
	山田 康晴 (土木S53年)	愛媛県
	飯田 和樹 (海洋S54年)	四国小松フォークリフト(株)
	中尾 均 (土木S54年)	伊予鉄道(株)
	玉井 良二 (土木S54年)	松山市
	福岡 修一 (土木S55年)	ショーボンド建設(株)
	村上 浩司 (海洋S55年)	芙蓉コンサルタント(株)
	加藤 幸彦 (土木S55年)	㈱四電技術コンサルタント
	永井 康生 (土木S56年)	愛媛県
	白石 研司 (土木S58年)	㈱平成工業
	大倉 修 (土木S62年)	愛媛県
	渡邊 政富 (土木H2年)	渡邊建設(株)
	山本 修嗣 (海洋H2年)	五洋建設(株)
	谷口 貞広 (土海H7年)	松山市
	明日 孝憲 (土海H9年)	愛媛県
	白石 誠 (土海H11年)	松山市
	木村 将伸 (環建H12年)	松山市
監 事	友近 榮治 (土木S48年)	南海測量設計(株)

なお、支部の運営やご意見などがございましたら、遠慮なく幹事長にご一報いただきたいと考えております。いただきました意見等を参考に、支部の運営をよりよいものにしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

【平成24年度のおもな行事の紹介】

★自主活動 『大賀先生を囲む会』 (8月) ★



平成24年8月3日(金) 平成24年4月に大賀先生が工学部長、理工学研究科長に就任されたことのお祝いとともに、これまでのご指導やご苦勞に敬意と感謝の意を表して、『大賀先生を囲む会』を新居浜市「ユアーズ」にて開催し、40名（うち会費納入者13名）の参加のもと盛大に行

われました。

★愛媛支部主催 ゴルフコンペ★

平成24年11月24日(土)にサンセットヒルズカントリークラブで開催されました。

総勢10名で競われた結果は、優勝は加藤幸彦さん(土木S55)、準優勝は山内武志さんでした。

★平成24年度 忘年会★



平成24年11月24日(土)に伊予鉄会館「中国料理 北京」において、総勢33名の参加により行われました。

産官学の方々が気兼ねなく集える場所ですので、有意義な時間が過ごせることは間違いありません。今後の忘年会には是非とも参加のほどよろしく願います。

(あまり固苦しく考えなくてもいいと思います。)

★愛媛支部主催ゴルフコンペ★



平成25年6月8日(土)にサンセットヒルズカントリークラブで開催されたゴルフコンペの集合写真です。

総勢12名で競われた結果は、優勝は山田康晴さん(土木S53年卒)、準優勝は内田裕さんでした。

今後は、愛媛大学土木海洋会のホームページに活動報告を積極的に掲載し、同窓会の皆様に少しでも関心を持って頂けるようがんばってまいります。!!

愛媛大学土木海洋会

検索

以上、愛媛支部の活動報告を終わります。

愛媛大学土木海洋会 国土交通省四国地方整備局 同窓会報告

高須賀 大祐（環建平成19年卒）

私たちは、年代は違うのですが愛媛大学の土木工学科・海洋工学科・土木海洋工学科・環境建設工学科を卒業したメンバーです。3年ほど前から、昭和53年度に土木工学科を卒業した藤山究先輩の提案で、四国地方整備局内の同窓生の親交を深めようということになり、同窓生探しが始まりました。現在も情報を収集中でして、同窓生の一覧表が完成しつつあるところです。恥ずかしながらそれまでは一体誰が同窓生なのか、よく分からない状態でした。一覧表の作成過程の中で、あくまで職場のメンバーとして接してきた人も、実は同窓生で、そのことをお互い初めて知った、なんていう新たな発見もありました。

今回の同窓会は、上は58歳から下は27歳まで、幅広い年代の同窓生が参加するとともに、愛媛大学の大賀先生・渡邊先生・木下先生にご参加いただき、とても有意義なものになりました。会の開催にあたり参加者を募る際には、遥か遠くの上司の方も多数いらっしゃいましたが、驚くほど気さくに接していただき、同じ大学の出身という仲間意識を強く感じることができました。

今後、年に1度は同窓会を開催したいという話になりましたので、次回はもっと盛大に開催できればと思っております。目指せフルメンバーの参加!!



投 稿

宗片 康修（鉾山38年卒）

われ等が愛大鉾山38クラス会は、2年前の超田舎会場から、一転最先端の町茨城県つくば市で、近隣地区在住の4名のお世話により開催。

茨城県と言えば、23. 3. 11東日本大震災以来地震の多発地帯、つくば市と言えば、24. 5. 6の竜巻大被害があり、その日からわずか2日後の開催で、ありがたいことに開催予定地は被害がなくて、被災地をわずかながら応援できる事と相成った。

5月8日(火) 13:00 つくば駅前の「オークラフロンティアホテルつくば」のロビーに、直行の人、東京経由の人、羽田からと徐々に集まり、10年ぶりに参加の人も居て、再会を喜ぶ。

全員揃ったところで、つくば市と言えば「JAXA筑波宇宙センター」。今まで、TVでしか見ていない実物大の各種人工衛星モデルやロケットの進化の展示など若く美しい女性の説明を聞き、また現実に国際宇宙ステーションに参加している日本実験棟「きぼう」の運用管理をリアルタイムで行っている管制室など、正に最先端技術の集積場だった。2時間弱のガイドでは少し消化不足では有るが、又の機会にもう一度の気分。

その後、ホテルへ帰着、各室へ分散、汗を流し、くつろぎ、宴会場へ。乾杯の後、卒業50年目、70歳を超えているが、まだ1名も欠けていない、うれしく・ありがたい仲間達、欠席4名の近況報告のはがきを回覧、出席者の近況報告等、さすがに1病・2病は誰もが抱えてはいるが、ゴルフ三昧の人、介護を受けながらも参加の人、教育関係で瑞宝章を受賞された人、昔と変わらぬ体型の人がほとんどだが、ちょっと肥えた人など多彩、夢も希望も持っている話に驚きや関心するやらと元気付けられる。

次々と出てくる料理は当然食べきれないが、話の種も尽きない。男だけのクラスだが今回はM氏の介護師ご同伴で、紅一点さんが明るく、笑顔で全員へのサービスを旺盛に提供してくださり、今までにない笑いと喜びに満ち満ちた宴会となった。



閉会後は自室で休むもの、話し足りなくて一部屋へ集まり、遅くまで飲み、かつ談笑。

翌朝は寝不足の人、寝過ぎて美味しい朝食を食べられなかった仲間、早く目が覚めて朝食時間が待ちきれない仲間もいたが…。

2日目の行程は、同輩陶芸家、藤原氏親子が経営する

「桜窯」<http://www2s.biglobe.ne.jp/~kiichi/top.htm>での陶芸体験。



ここで作品を考える人、すでに陶作を考えてきた人、基礎から教えてもらい、ご子息のお手伝いも戴き、皆それぞれに自分の夢に集中し無駄口も無く、一心不乱に、コーヒーカップや蓋、飾り皿、実用的に普段使用の皿など、それぞれに個性を出しての挑戦、3時間はすぐに過ぎてしまった。

作品は、上薬をかけ、窯で焼きなど大事な行程はプロ任せで、出来上がりは、1～2ヵ月後、作品の着荷が楽しみだ。

再び、駅前のホテルロビーへ戻り、次回2年後の松山で元気に再会しようと誓い、非常に楽しく・素敵な企画をしてくださった幹事さんに感謝し、別れを惜しみながら、それぞれに離れて行った。

それにしても余りにも短い時間であったことか！もう一日くらい欲しい！

愛媛大学中村教授就任祝賀会（於広島）報告

宮岡 勲（●年卒）

この度愛媛大学工学部環境建設工学科「中村先生」が、平成24年10月1日付で同学部の教授に昇格就任された。これを受け、先生と関係の深い大阪大学、名古屋大学の関係者よりの要請もあり、海岸工学会に合わせて「昇格祝賀会」を、広島市で開催した。その概要は以下の通りである。

日 時	平成24年11月13日(火) 18:00～21:00
場 所	懐石料理 豆匠 広島市南区比治山6-24 TEL 082-506-1028
参加者	30名（名簿別紙記載）

この会は勿論、中村先生ゆかりの大学関係者が殆どであり、しかも中村先生の専門である海岸工学会が当日から広島で開催されたため、その方達の声もあって行われたものである。

会は中村先生の大恩師である故樫木先生（元阪大教授）の黙祷に始まり、阪大OB諸先生方の祝辞を経て宴たけなわに突入した。その後、中村先生の幼馴染の女性書道家による祝辞・記念品贈呈、阪大の女性後輩による花束の贈呈があり、盛り上がり花を添えた。最後は主賓である中村先生のお礼の言葉と感謝の意で締め括られ、二次会へと流れた。

中村先生は、昭和46年愛媛大学工学部土木工学科を卒業後、大阪大学工学部土木工学科大学院を経てアメリカ・オレゴン大学に留学し、愛媛大学に帰って来られた。そして昭和54年助教授に就任以来33年の時を教壇、研究に没頭され、岩窟王の異名に値するほど我慢強く世の土木工学業、また本大学及び関連大学に多大なる貢献をされて来られた。阪大時代の大恩師樫木先生によって、「中村君が早くから教授になれない世の中がおかしい」と言わしめるほどその偉業、人柄は誰もが認めるところであり、同先生に師事してまさに「面壁九年」以上の忍耐であった。現在はアフリカ・モザンビーク海流解析、今治の潮流発電計画等にご活躍であるが、今後もさらに世の貢献としてミャンマー技術支援に乗り出す覚悟を持っておられた。



第12回えざわ会報告

岩丸 純芳（鉾山37年卒）

えざわ会は例年通り4月の花見時に神保町の学士会館で開催されました。出席者



は9人で昨年よりは少ないが、出席者の自己評価では先ず先ずの人数との事でした。今年は卒年S36年から42年までのメンバーでしたが混成の学年で12回も続いているのはえざわ会だけだと自負しています。高級洋食とワインの昼食会、そして出席者一人一人による近況報告です。それぞれの自慢話に相槌を打ちながらあつという間の3時間でした。

えざわ会とは元気な自分を見せびらかしに来る場だと言う人もいます。江沢先生は昨年同様ご自宅待機で我々の後日報告をお待ちです。今回のトピックスは主要幹事S氏が心筋梗塞の治療中で出席出来なかった事でした。S氏は自宅静養中ながらもえざわ会の出席案内等、メールで毎日連絡を取り合ってくれました。彼のその後の経過は順調で6月には趣味などで都内を飛び回っています。今年の東京の桜開花は予想外に早く、3月に散ってしまったので例年行っていた皇居と千鳥ヶ淵の花見散策を断念して、東京タワーで開催されていた筑豊の炭坑絵師山本作兵衛の原画展を見学する事になりました。炭坑夫出身の山本作兵衛は60代で炭坑労働の仕事と生活の様子を描き始め、没後20年以上の平成23年ユネスコ世界記憶遺産日本登録第1号となったそうです。えざわ会全員地下鉄で移動、御成門駅から徒歩7分、東京タワーの前で記念写真を撮りました。会場は入場料一人1,200円のところメンバーの身障者手帳のことで付き添い一人分も割引有りとの事、幹事さんは入口嬢とその計算に大童、昔の若者に還った気分です。最近の海洋や環境の方々から見て上流側の我々採鉱・鉱山・土木の時代は炭鉱がもっと身近でした。私の場合も先生方から生涯苦勞するぞと言われながら畑違いに就職しましたが工場実習では炭鉱にも行きました。原画展会場は広々としていて見応えがあり、皆さんそれぞれの思いで長時間じっくりと見ていました。会場を出てから、関東在住の皆さんも東京タワーは久しぶりだろうと、日曜のせいで混雑している各階を皆なで見て回ってから解散となりました。幹事団を含む私達数人は浜松町駅へ向かい、途中でやはり混雑していた増上寺を観光してから駅前に着きました。さすが東京、観光地だらけです。駅前前で客引きをしていたお兄さんの言うままに小さなお店で反省会となりましたが、席が狭いのが気になりました。これも東京だからでしょう。えざわ会幹事団のご苦勞をねぎらい来年の成功を願って乾杯をしました。えざわ会はどこでも参加出来ますので、ご連絡下されば2月頃にご案内を差し上げます。元気な自分を見せびらかすなり話題提供なり、新規参加をお待ちしています。



平成25年度 愛媛大学土木海洋会 総 会 議 事 録

開催日時：平成25年8月24日(土) 午後3時～
開催場所：愛媛大学校友会館
出席者数：33名

議 題
議 長： 河野 徹 会長

1) 平成24年度事業報告について

事務局より、総会資料－1に基づき、平成24年度中に実施された諸事業について、例年の事業に加え、会の活性化の検討として学内幹事会、会長との懇談会等が開催されたことが説明され、これらが全会一致で承認された。

2) 平成24年度決算報告について

事務局より、総会資料－2に基づき、平成24年度の決算報告がなされるとともに、この会計について大門監事より適正であることを認める旨の会計監査結果報告がなされ、これらが全会一致で承認された。

3) 平成25年度役員について

事務局より、総会資料－3に基づき、平成25年度役員（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

平成25年度の新役員は、以下のとおり。

- 副会長：高橋 正雄（海55）
- 幹 事：栗原 弘和（土2）
- 評議員：黒川 重男（土55）、柏木 亮太（環25）、伊藤 文（環25）

4) 平成25年度事業計画について

事務局より、総会資料－4に基づき、平成25年度事業計画（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

なお、同窓会活性化、会費増収のための意見が出され、事務局を中心に検討し、可能なものから実施することとなった。おもな意見は後述（6その他）する。

5) 平成25年度予算について

事務局より、総会資料－５に基づき、平成25年度予算（案）について説明がなされ、本案が全会一致で承認された。

6) その他

総会に先立つ役員会では同窓会活性化、会費増収のための意見が出され、事務局を中心に検討し、可能なものから実施することとなった。おもな内容は以下の通り。

- ・ 実質的に活動可能な職場で職場班を復活する（会費徴収、連絡網整備）。
- ・ 新しい連絡網として、メール、ホームページ、メールマガジン等を検討する。
- ・ 一部の長期会費滞納者（名簿発送中止）へ名簿発送し会費増収を図る。
- ・ 年数回のメール審議での役員会の開催により事業の改善を図る。
- ・ 比較的会員の多い地区で新支部を設立し会費増収、活性化を図る。
- ・ 土木海洋会だより等での支部活動報告では会員の参加状況が分かるようなものとする。
- ・ 新卒者へは名簿や工夫されたパンフレットを配布することにより、会の認知度を上げる。
- ・ 学科と会の連絡を図るため、現役学生との交流の場を設ける。具体的には支部において就職説明会を兼ねた交流会を開催する。本年度は近畿支部において開催を検討する。
- ・ Advanced Study Programでは講師としてOBOG 1 名、学科教員 2 名程度の構成で企画する。



平成25年度・愛媛大学土木海洋会総会（愛媛大学校友会館）

愛媛大学土木海洋会 会計報告

平成24年度 決算報告書
(平成24年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日)

収 入 (円)		支 出 (円)		
前年度予備費	1,272,402		(昨年度決算)	(決 算)
年会費	2,763,000	印刷費	929,617	907,473
広告掲載料 (22社)	500,000	郵便・通信費	583,090	585,780
利息	180	旅費	540,000	510,160
寄付金・その他	165,000	(教員派遣、総会出席)		
		支部援助金	400,000	400,000
		援助金	34,000	64,000
		(学内、同窓会、同期会)		
		会議費	4,080	2,300
		謝金	751,500	653,500
		雑費(手数料)	156,707	163,820
		事務費	64,853	89,421
		(PC消耗品、文具)		
		小 計	3,463,847	3,376,454
		次年度繰越金		1,324,128
合 計	4,700,582	合 計		4,700,582

上記について会計監査の結果正に相違ありません

平成25年 8 月20日

監 査	松木 三郎	㊞
監 査	大門 和敬	㊞

資料－５

愛媛大学土木海洋会平成25年度予算（案）
（平成25年４月１日～平成26年３月31日）

収 入		支 出		
項 目	金 額	項 目		金 額
前年度予備費	1,324,128		(24年度決算)	(予 算)
平成25年度会費 (1000口)	3,000,000	印刷費	907,473	950,000
広告掲載料 (25社)	500,000	郵便・通信費	585,780	600,000
寄付金	200,000	旅費 (教員派遣、総会出席)	510,160	550,000
利息	150	支部援助金	400,000	400,000
その他	0	援助金 (学内、同窓会、同期会)	64,000	100,000
		会議費	2,300	10,000
		謝金	653,500	700,000
		雑費 (文具、手数料)	253,241	200,000
		小 計	3,376,454	3,510,000
		次年度繰越金		1,514,278
合 計	5,024,278	合 計		5,024,278

事務局だより

1. 会費についての内規

平成12年より70歳以上の会員の会費は免除することにしております。また60歳以上の会員は終身会費として会費を一括払いすることができるようになっておりますのでご活用ください。なお会員の方々の年齢は卒業年次により計算させていただいておりますことをご了承ください。

会費についての内規

1. 会費は、年額3,000円とする。ただし、70歳以上の会員の会費は免除する。
2. 60歳以上の会員は、終身会費として一括払いをすることができる。終身会費は、60歳以上65歳未満の会員に対しては、20,000円、65歳以上の会員に対しては、10,000円とする。
3. この内規の変更は、総会の議決による。

2. 会合への助成金制度

この制度は、同窓生の皆様に、同窓会活動を活発化していただくために設けられたものです。同窓生の親睦などの目的に活用していただきたいと思います。下記の細則2の提出物を添えてお申し込みください。事前のご相談もお受けいたします。

〈同期会・研究室同窓会・職場班会・地区同窓会などに対する助成金制度〉

助成金額：出席者会員1名当たり1,000円を上限とする。ただし、会員5名以上の会合で、助成最高額は50,000円とする。

上記助成金制度の細則

細則1. 助成対象

出席者の全員または一部が会員である会合に対し助成する。

細則2. 本部事務局への提出物

1. 案内状1部（土木海洋会への会費納入催促の文をなるべく記載のこと）

2. 最終出席者名簿 1 部（氏名、卒業学科・年、その他（勤務先、住所など）
3. 集合写真 1 枚（日付入り）
4. 住所変更の報告
5. 土木海洋会だよりへの投稿原稿

細則 3. 助成回数

同一組織による会合への助成は、年度内において 1 回とする。

上記の助成は、平成 9 年度より実施する。

3. ホームページについて

土木海洋会のホームページを開設しました。行事等の情報を掲載いたしますのでぜひご覧ください。支部行事、会合の案内等のホームページへの掲載を希望される場合は事務局までご連絡ください。

土木海洋会ホームページアドレス <http://www.cce.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

4. 土木海洋会だよりへの投稿のお願い

毎年12月に発行しております「土木海洋会だより」への掲載記事を募集しております。

個人・グループの近況、活動報告、技術記事などを寄稿ください。掲載ご希望の方は事務局までご連絡ください。

愛媛大学土木海洋会だより 第19号

発 行 日 平成25年●月●日

発 行 者 愛媛大学土木海洋会

〒790-8577 松山市文京町3番

愛媛大学工学部環境建設工学科内

☎ 089-927-9823

F A X 089-927-9823

Eメール dokai@cee.ehime-u.ac.jp

郵便振替 加入者名：愛媛大学土木海洋会

口座番号：01640-6-37779

銀行口座 加入者名：愛媛大学土木海洋会

伊予銀行城北支店（支店番号150）

普通口座 150-1-1231698

ゆうちょ銀行一六九（イチロクキュウ）店

当座 0037779

土木海洋会

検 索

土木海洋会ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp/~dokai/>

メールアドレス

dokai@cee.ehime-u.ac.jp

愛媛大学工学部環境建設工学科ホームページ

<http://www.cee.ehime-u.ac.jp>